



都会のバーから繋がる
自給への道。

高坂 勝

たまにはTSUKIでも眺めましょ

池袋にあるオーガニックバーの「たまにはTSUKIでも眺めましょ」。オーナーの高坂勝さんは脱サラ後、自立への経緯を著書「減速して生きる ダウンシフターズ」に書いたことで広く知られるようになった。本には「忙しい消費社会から一歩外れ、収入や生活の速度を落とすつも、本当の幸せを掴む。ということをご自身の例をあげて書かれている。3年前から千葉県匝瑳市で「NPO SOSA Project」も立ち上げ、「my田畑」制度で食の自給力を高める活動を始めた。

「店や本を経由して、年に200人くらいは田んぼにやってきます。なかには仕事に疲れ、うつ状態の人も。「my田畑」の募集が30組で、1年目は諸費用合わせて3万円いただくのですが、2年目からは1枚4千円でお貸しします。そこから自給が始まるんです」と話す高坂さん。今では、延べ100人以上の人がお米と大豆を自給しているとのこと。「年に20回も田んぼに行けば十分な量のお米が穫れます。自分で育てたお米は感動もひとしおですよ」

NPOでは、味噌・醤油作りや電気的自給ワークショップ、スモールビジネスの創出



など、ダウンシフトを試みる人へ、更なる自給力アップの方法も教えてくれる。

「TPPなど世界で動くグローバル化に対処するため、自分の自給力を高めることは最大の防御であり社会を変える攻めにもなります。また、地域で活動することにより、仲間も生まれ、それが安心や豊かさに繋がるんです」

お店では高坂さん手作りのお米や大豆のほか、お酒、調味料も選び抜かれたものを使っている。素材の味を存分に引き出す料理は、素朴ながら身にしみる美味しさだ。週4日の営業で「儲けすぎない」をモットーにしているのに、每晚多くのお客さんで賑わっている。

池袋という都会の真ん中から、お客さんは感じるのだろう。グローバル化が進むこの時代のなかで、本当は何を自分が必要としているのかを。

たまには TSUKIでも眺めましょ
東京都豊島区池袋 3-64-2
Tel. 03-5954-6150
http://masaruokohsaka.org/saito/Organic_Bar.html
高坂氏は(緑の党)の共同代表としても奔走中!

「半農半X」に関心のあるかたにオススメする、平日の動機は諦めず「平日に農を楽しむ」「平動休農」というライフスタイル。ここでは「平動休農」に賛同する2名をご紹介します。「農」に関わる暮らしには、お金では買えない「持続可能な幸せ」のヒントが詰まっている。

文・渡辺 勇 写真・伊藤 郁

暮らす幸せを農から学ぶ 平動休農のすすめ



新しい農村暮らしを学び、
未来を想像する場所。

林 良樹

鴨川地球生活楽校



都市に暮らす人たちが、農のある生活に触れる。まわりに田畑が少なくなっている都会では、それがなかなか難しい。千葉県房総半島の「鴨川地球生活楽校」はそんな都会に住む人に、「農との接点」さらには「農村への入口」を提供している。

「村の長老たちと協力して、「棚田オーナー制度」をやっています。月一回作業して、多くて70人ほどが集まります。穫れたお米はシェアします。自然と村民と都市住民が親しくなって、移住する人もできています。定年退職組や若い子育て世代まで。この長老たちは本当にオープンで知りたいと思えば何でも教えてくれるんですよ」と話すのは、代表的林良樹さん。世界中の放浪の旅の末、イタリアで自然農を営む家族に出会ったことで、これからの歩むべき道が明確にみえたという。14年前にこの地に移り住み、農と向き合いながら、この場所の魅せられていった。

<鴨川地球生活楽校>では、棚田や畑地、果樹園や山林が歩いてまわれる距離に全て揃う環境を活用したプログラムを組

んでいる。有機栽培による米や野菜作り、発酵食作りに加えて、村の長老たちから教わる、糞細工や竹細工などの手仕事。このような古の知恵に加わるのはオルタナティブな新しい技術。コンパニオンプランツの考え方で作られた段々畑、無臭のコンポストトイレ、生活排水を浄化する側溝システムなど。より良い工夫は世界中から集めて、そこに芸術性や遊び心も加えて創っていく。「農村に価値はないと思っている人たちに、「農村こそ未来を創る場所」ということを伝えたいんです」と林さん。

里山が残る農村で新しい暮らしかたに触れるとともに、農や食と向き合うこと。都会に住む人から遠のいてしまった、このふるさとのような場所こそ、持続可能な暮らしの理想像がみえるのかもしれない。

鴨川地球生活楽校
千葉県鴨川市釜沼 875 番地
Tel. 04-7098-1878 080-5087-3280
Fax. 04-7098-1878
<http://earthschool.lawnowa.jp>

都市生活者の農力向上委員会：平動休農キャンペーン事務局

「日本を経済成長に頼らない最小不幸社会へソフトランディングさせる」ことを目的として、「暮らす幸せを農から学ぶ」をコンセプトに、「農力検定」資格試験を創設したほか、「耕作放棄地再生サミット」、「平動休農キャンペーン」などを展開している一般社団法人。現在の活動範囲は首都圏近郊に限定しているが、「論より実践」という方針に賛同する関心を広く求めている。

Info : <http://recult.org>
「農力向上委員会」で検索!
Blog : www.blog-headline.jp/agriability
Facebook : www.facebook.com/Noryokuup

加藤登紀子さん 平動休農メッセージ

加藤本報が語っていたことは、「農という分野の上には、「生産」だけでなく、「教育」「癒し」「レジャー」が盛り、そこから文化が生まれる」ということ。農に関わることで、自分自身の意識が変わり、子どもたちの教育にもなり、人と人を繋ぐことにもなるんです。私は病院

も学校も企業も農地を持っていたらいいと思っています。農を軸にして、今まで欠けてきた、多くのことを取り戻せると考えています。農の可能性は過大です。都市生活者も休みの日には近郊の農園へ復讐に行くことで、農を共有する暮らしや社会を作っていきますよ。

